

平成18年度 大学院工芸科学研究科 秋入学宣誓式
学長告辞

本日、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科に入学された博士前期課程四名、博士後期課程九名の皆さんに対し、京都工芸繊維大学を代表して心から歓迎の意を表します。

今日、研究者、高度技術者を志向する若い新しい力を迎え入れることができたことは、京都工芸繊維大学にとって、大きな喜びであります。

皆さんは、学部や修士課程で身に付けた知識や能力をもとに、これから、本学大学院においてより高度な研究に取り組まれることになります。

そこで、まず、本学の特色と基本理念の中で謳っている教育研究の指針を紹介させていただきたいと思います。

京都工芸繊維大学の特色は、伝統文化の源である古都の風土の中で、知と美と技を探求する独自の学風を築きあげ、学問、芸術、文化、産業に貢献する幾多の人材を輩出してきたことにあります。

その歴史を踏まえ、社会的な要請に応じて更なる発展をする礎としてつぎの三つの教育研究の指針を掲げています。

第一は、

「人類の存在が他の生命体とそれらを取りまく環境によって支えられていることを深く認識し、人間と自然の調和を目指す」ことです。

第二は、

「人間の感性と知性が響き合うことこそが、新たな活動への礎となることを深く認識し、知と美の融合を目指す」ことです。

第三は、

「社会に福祉と安寧をもたらす技術の必要性を深く認識し、豊かな人間性と高い倫理性に基づく技術の創造を目指す」ことです。

本日入学された皆さんも、この教育研究の指針をよく理解し、これからの本学での研究活動の指針としていただきたいと思います。

本学が目指している知と美と技の探求とはどのようなことを意味するのでしょうか。

これは、皆さんがこれから本学でうけられる教育内容と深い関係があります。

人間の知には二種類あると言われていています。一つは、対象知 (knowing what) あるいは学習知といわれるものです。学校の授業などを通して教授される概念的な知識がこれに当たります。知識は、一般にこの対象知あるいは学習知を指します。

他の一つは方法知 (knowing how) あるいは身体知と言われるものです。これは実践的な経験を通して初めて得られるものです。この方法知は、科学的な発見や創造的な仕事に大きく作用すると考えられています。

物事が「身に付く」というのは、学習知が身体化され、方法知と統合されることであると考えられています。この対象知と方法知が統合された知が、「わざ」や「技能」

と言われるものです。

「わざ」や「技能」によって新たに創造されるものは、独創的であるばかりではなく、それが身体表現であれ、造形表現であれ、また、科学的理論であれ、審美的に調和のとれた美しいものであります。この意味で、知と美と技の探求は人の創造的な行為の基本となるのです。本学は、知と美と技を探求することによって、人間の創造的行為の能力の涵養のための教育研究を行っています。

さて、「わざ」や「技能」を身に付けるには、その前提として技術を学んでおかなければなりません。スポーツや芸道では、通常、練習の初期段階においてはフォームや型がことのほか重視されますが、この段階が技術の学習の段階に相当します。

「型」は無駄のない美しいものとされていますが、その型の体得が重視される背景には、「わざ」や「技能」の習得が「身体の正しいあり方」の習得に繋がると考えられているからです。

型の習得は、模倣と反復を通して「形」を確認することと並行して、自己の身体感覚に気づくことを目指しています。形をまねるといふことは、単なる物理的な反復行為ではなく、認知的行為と行動的行為が統合される過程なのです。

科学における基礎教育では、先行する古典的な実験・理論を自らが検証するという訓練が行われますし、造形活動においては、古典的作品を吟味・模写することが行われます。これらは、重要な対象知を獲得するだけでなく、その対象知を導く方法知を会得するための活動なのです。

身体知あるいは方法知の獲得とは、身体運動の反復訓練を通して、環境世界の意味を分節化し、いかなる文脈にも即応できる現場感覚を、いわば身体感覚として体得することを意味します。

実践的行為の経験を積むことにより、行為の組織的認知を可能とする身体記憶が培われますが、これはまた、「わざ」がプログラム化され、知覚システムとしての新たな神経回路が構築されるということになります。

このようにして、推測するための直観力、未知のものを見るスキル（技能）、それが妥当であると判断する力という、科学的発見に必須の要素といわれるものを獲得することができるのです。

本日入学された皆さんは、これから、さまざまな専門分野で創造性に富んだ独創的な仕事をしたいと希望されていると思いますが、その実現のためには、学習知と方法知を統合する方法を見出さなければなりません。

皆さんが、今日からの数年間の研鑽によって、学習知と方法知を統合する方法を見出し生涯に亘って創造的な仕事を可能とする礎を築かれることを希望します。

皆さんの大学院生活が実り多いものであることを期待して私の式辞と致します。

平成一八年十月二日
京都工芸繊維大学長
江島 義道